京都大学教育研究振興財団助成事業成 果 報 告 書

2025年 5月 30日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 藤 洋作 様

所属部局 医学研究科

職 名講師

氏 名 平 大樹

助成の種類	令和5年原	を 研究活動推進助	成
申請時の科研費 研 究 課 題 名	肺内送達薬物量モニタリングシステムを基盤とした新規モダリティ吸入薬開発手 法の確立		
上記以外で助成金 を 充 当 し た 研 究 内 容	なし		
助成金充当に関わる共同研究者	(所属・職名・氏名)		
発表学会文献等	(この研究成果を発表した学会・文献等) Daiki Hira, et al., 22nd International Congress of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology, 2024年9月15-18日(Banff, Canada). 島添咲希子, 平 大樹 他. 第34回日本医療薬学会年会, 2024年11月2-4日(千葉).		
成果の概要	研究内容・研究成果・今後の見通しなどについて、簡略に、A4版・和文で作成し、 添付して下さい。(タイトルは「成果の概要/報告者名」)		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額		1,500,000 円
	使用した助成金額		1,500,000 円
	返納すべき助成金額		0 円
	助成金の使途内訳	費目	金額
		消耗品費	559,079
		備品費	223,300
		学会出張旅費	460,820
		学会参加費、英文校正料	117,220
		ソフトウェアライセンス料	139,581
	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきま		
当財団の助成に つ い て	す。)		
	科研費不採択の為円滑な研究遂行に支障をきたす恐れがありましたが、貴財団助成によりご支援頂いたお かげで、着実な成果創出に繋がりました。心より感謝申し上げます。		
	マン・ストロス・カルス/小石1口1に弁がってかし		

研究成果の概要/平 大樹

研究内容

吸入によるドラッグデリバリーは呼吸器系への局所集中投与が可能であることから、 気管支喘息などの局所呼吸器疾患に広く用いられている。さらに低分子医薬だけで なく、遺伝子などの新規モダリティ医薬の投与経路としても関心が高まっている。しか し、患者の使用方法による肺内送達薬物量のばらつきが大きく、投与された後に肺内 に送達される薬物量を定量的に評価する方法がないことから、個々の患者に合わせ た個別化投与設計法は確立されていない。低分子医薬以外のモダリティへ拡大する ためには精緻な投与量制御法の確立が必要不可欠である。

本研究では、研究代表者らが開発した非侵襲的リアルタイム肺内送達薬物量モニタリングシステムを活用して、プラスミド DNA をはじめとする新規モダリティ医薬の吸入粉末剤の新たな投与設計手法の確立を目指す。2024年度は肺内送達薬物量の予測精度向上を目指して、市販されている吸入剤を用いた評価法の構築を行った。

研究成果

2024年度の成果として、現在臨床現場において気管支喘息治療に用いられている吸入粉末剤をモデル薬物として用いて、肺内送達量予測アルゴリズムの構築を行った。日本薬局方収載の in vitro 空気力学的粒子径評価装置と我々が構築した粒子放出シグナルモニタリングシステムを組み合わせ、様々な吸入パターンでの吸入を行った後の薬剤の沈着挙動と粒子放出シグナルの関係性を評価した。その結果、非侵襲的かつリアルタイムの粒子放出シグナルモニタリングにより、肺内および肺深部へ送達される薬物量だけでなく、口腔咽頭への薬剤沈着量も推定可能となることが示された。

研究成果の学会発表等

- 2. Hira D, Hatazoe S, Kondo T, Ueshima S, Okano T, Hamada S, Sato S, Kakumoto M, Terada T: Novel TDM strategy; Inhaled breath as an alternative matrix in TDM for inhalation medicine. 22nd International Congress of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology, Sep 15-18, 2024 (Banff, Canada).